

講義名	対)卒業研究		
講義コード	54417	授業形態	開講期・曜日・時限 通年 金曜日 4時限
担当教員	川合 宏之	備考	

学部・学科	演習分野
経営学科・マーケティング学科 経済学科・経済情報学科	教育学・キャリア教育

<p>概要説明</p> <p>ゼミ全体の活動 本演習は、「なすこと」によって学ぶこと、つまり実践活動を重視しています。実際に学校教育現場で教育的活動の補助、具体的には子どもの遊びや学習の支援活動を行います。私の研究フィールドである高校だけでなく、小学校や中学校、地域など学外の様々な機関との連携により、児童生徒の集団的活動の企画や運営、活動に参画することで、子どもをより深く理解し、他者と連携協力して関わることのできる資質を養っていきます。</p> <p>現行の学習指導要領では、学校は「地域の中の学校であること」、つまり学校と地域社会との連携をより強調しています。実践活動を通して地域社会とのコミュニケーション力や企画力、創造力を養うことの意義を学んでほしいと思っています。</p> <p>学年ごとの活動 「研究演習」では、実践活動をベースに、自分の考えを表現する、他者のさまざまな考えに触れ、共有するといった活動を展開します。</p> <p>「研究演習」は、実践活動をベースに、自分なりのテーマをもって、研究を深めます。文献購読によって、議論や研究のための学習をすとともに、個人研究のテーマをしぼり卒業研究につなげます。</p> <p>「卒業研究」は、これまでの学びの集大成として、卒業論文の執筆に取り組みます。就職活動も含めて、個別指導を重視します。</p>

<p>主な卒業論文のタイトル</p> <p>「高校生と大学生の視野の違い」 「生徒と子ども」 「高大連携が生む相互成長の効果分析 - フィールドワークの体験から -」 「高大連携授業における高校生のキャリア意識と学習意欲の変化」 「高大連携活動の成果とこれから」 「高大連携の必要性について」 「高大連携における学習効果 - 実践研究の事例から -」 「高大連携の重要性 - ナナムの関係 -」</p>
--

<p>教員よりの要望</p> <p>本演習は実践活動を重視しているため、以下のことを学生に求めています。</p> <p>企画を学生自ら立案・実行し、またそうした活動を他者に向けて情報発信できること。 活動を進める場合は、ほとんどがグループでの協働作業となるため協働性を大切にできること。 ゼミの時間以外で活動に費やす時間も多いため、意欲的・積極的に取り組めること。</p>

<p>選考方法</p> <p>面接、演習申込書、成績（単位取得状況）などによって、総合的に判断します。</p>
--

<p>評価方法</p> <p>出席はもちろん、ゼミへの取り組みの態度や成果、貢献度などによって総合的に評価します。</p>	
<p>教員英字氏名</p> <p>Hiroyuki Kawai</p>	<p>研究室</p> <p>3405研究室（研究棟 4階）</p>
<p>最終学歴</p> <p>関西大学大学院 心理学研究科 博士課程後期課程 兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教育実践高度化専攻（専門職学位課程）</p>	
<p>学位</p> <p>博士（心理学）、教職修士（専門職）</p>	
<p>主な研究活動・社会活動・研究業績</p> <p>教員プロフィールを参照してください。 https://www.umds.ac.jp/academics/profile/index_ka/kawai</p>	
<p>趣味・特技</p> <p>テニス、映画鑑賞、資格取得</p>	
<p>所属</p> <p>商学部経営学科</p>	
<p>所属学会</p> <p>日本商業教育学会、経済教育学会、日本キャリア教育学会、秘書サービス接遇教育学会</p>	
<p>専門分野</p> <p>高等学校商業教育、職業教育 キャリア教育、高大接続・連携</p>	
<p>担当科目</p> <p>商業科教育法、生徒・進路指導論、職業指導、ビジネスプラン論、キャリアビジネス論、研究演習、研究演習、卒業研究、自己発見とキャリア開発A、自己発見とキャリア開発B</p>	
<p>備考</p>	
<p>実務経験の有無及び活用</p> <p>実務経験あり 高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践をしてきた。それらの知見や経験を生かし、高校や地域など学外の様々な機関との連携により、アクティブ・ラーニングを取り入れたゼミ運営を行っている。</p>	